

「なくそう！ 日米軍事同盟・米軍基地 2016 年日本平和大会 in 三沢」成功に向けた呼びかけ

2016 年 3 月 24 日 第 2 回実行委員会

平和を愛する全国のみなさん。

今年 10 月 22、23 日の両日、米軍三沢基地を抱える青森県三沢市で、「なくそう！日米軍事同盟・米軍基地 2016 年日本平和大会」を開催します。この大会は、■戦争法廃止、戦争法の具体化・発動ゆるすな、憲法改悪阻止・憲法守れの国民的運動を学び、交流し、発展させる。■沖縄新基地建設阻止、米軍基地強化に反対し、米軍基地のない日本めざす運動を学び、交流し、発展させる。■これらの根本にある日米軍事同盟強化の動きを告発し、日米軍事同盟（日米安保条約）廃棄の展望を学び、世論を広げる。■三沢基地撤去の世論を広げ、青森、東北全体の平和運動の発展をめざすことを、特に重視して開かれます。

いま、安倍政権は、憲法と民主主義を踏みこみによって強行した戦争法を 3 月 29 日に施行し、戦後初めて自衛隊を海外の「殺し殺される」戦場に送り出す準備をすすめています。また、7 月の参院選（衆参同日選の可能性も）に向けて、憲法改悪の執念を露わにしています。さらに、沖縄への新米軍基地押しつけはじめ全国の米軍・自衛隊基地強化をすすめるようとしています。これは、昨年 4 月に合意した新「日米防衛協力指針」にもとづき、日米軍事同盟を世界規模に拡大し、米軍と自衛隊が世界中で共に戦争できる体制をつくるためです。

しかし、この憲法破壊の暴走に反対する、広範な国民の歴史的運動が進展しています。「誰の子どもも殺させない」「自衛隊員を若者を戦場に送るな」「憲法壊すな」と、一人一人の市民が声をあげ行動に足を踏み出し、この願いが合流し、参院選挙での野党共闘を求める流れとなって発展してきました。そしてこの中で、戦争法廃止、立憲主義回復、安倍政権打倒めざし、野党の選挙協力が合意され、その具体化が全国で広がっています。

沖縄・名護市辺野古への新米軍基地建設押しつけのたくらみも、翁長雄志知事を先頭にした圧倒的多数の県民のゆるぎない反対運動に直面しています。この中で、国が知事の辺野古の埋め立て承認取り消し決定をおしつぶそうとした「代執行裁判」では、法を濫用する国の強権的な姿勢に批判が高まり、国は裁判所の「和解」勧告を受け入れ、工事を中断せざるをえない事態に陥っています。

各地の基地強化に反対する運動、消費税大増税に反対し、5 兆円超の軍事費を削って暮らし・被災地に回せの運動、原発再稼働・米日大企業の利益のために農業や経済を破壊する TPP に反対する運動など、安倍政権の暴走に反対する様々な国民の運動が広がっています。

こうした情勢のもと、当面、憲法記念日にむけた戦争法廃止 2000 万人署名運動を成功させ、6 月の沖縄県議会議員選挙、7 月の国政選挙で、安倍政権の暴走に審判を下す運動に全力をあげましょう。そして、平和と憲法を守る運動をさらに発展させ、三沢での平和大会に結集しましょう。

米軍三沢基地は、F16 戦闘機が今も中東での「対テロ戦争」で空爆に参加している、「日本防衛」とは無縁な海外への出撃基地です。しかも F16 は B61 核爆弾を搭載可能な戦闘機です。さらに、自衛隊も最新鋭の F35A 戦闘機の配備が計画され、米軍・自衛隊が一体になって戦争する体制が強化されている基地です。そして周辺住民は、爆音被害で故郷を追われ集団移転を余儀なくされています。この基地撤去を求める運動は、非核平和の日本をつくるうえで重要な全国的意義を持っています。この三沢での日本平和大会で、基地の危険な実態をしっかりと学びながら、米軍基地も軍事同盟もない憲法の輝く日本をつくる展望を開きましょう。そのために各地で平和のとりくみを強め、青年はじめ多数の代表を送り出しましょう。